≪共に学ぶ≫ 第17回市民教養講座（2020, No2）

テーマ：「海という世界を生きる魚たち」

日時：9月27日（日）　10:00～12:00

会場：旧若葉台西中学校木工室

講師：東京大学名誉教授　渡邊良朗先生

（現中国海洋大学客員教授）

定員：40名（先着順、申込みはVOSC事務所 921-0404）

参加費：無料　（コロナウイルス感染防止対策のため、マスク着用・上履き持参下さい。入口で消毒・検温を行い、蜜を避けるため間隔着席です）

海水に満たされた海という世界の魚たちは、大気におおわれた陸という世界の動物とはまったく異なる生きざまを見せる。マグロの卵の直径は1.0 mmでイワシの卵より小さい。ダチョウの卵はスズメの卵よりずっと大きいという陸の常識は、海では通用しない。小さな卵を産む海の魚では「卵の数」が親の大きさに比例し、イワシは数万、タイは数百万、マグロは数千万もの卵を産むのだ。

クロマグロの未成体

深海魚のムネエソ

マイワシの群れ

小さな卵から生れたばかりのマグロの体重は0.5 mgしかないが、親になると200 kgを超え、体重で4億倍という驚異的な成長を見せる。生れたばかりの仔魚は海水中を漂うプランクトンだ。巣の中で親に守られて育つ雛とは違って、海流や潮流に運ばれて生れた場所から数百kmも遠くへばらまかれてしまう。えさが豊富な海にたどり着くことができたごくわずかの仔魚だけが生き残る。陸上の動物とはまったく異なる海の魚の生きざまを、「海という世界を生きる」という目で見てみよう。

主催：電子顕微鏡でミクロを観る会（連絡先　922-1570）　受付：VOSC下記事務所へ

（この事業は東京応化技術科学振興財団の科学教育の普及啓発助成事業の助成を受けています）

@@

いつでも、どこでも、だれでも、いつまでもスポーツ・文化活動を

若葉台スポーツ・文化クラブ（若葉台4丁目34番1、VOSC事務所 ☎ 921－0404）

@@